



# いずみさの昔と今 第282回

### 「里井浮丘について③」

過去2回にわたって浮丘を紹介してきましたが、最終回となる今回は浮丘の晩年について紹介します。

文政6（1823）年に家督を継いで以降、長らく里井治右衛門家長として家業に村政にと目まぐるしい日々を過ごした浮丘ですが、いよいよ引退を決意します。安政6（1859）年、家督を息子の孝準（たかのり）へ譲り、空いた時間で学問に励むことにしたと「快園私抄」を著したることのやうに記しています。

浮丘は、忙しかった時間を取り戻すかのように書物を写し、歌を詠み、晩年を過ごしています。しかし、浮丘が家督を譲った後、翌年の万延元（1860）年には、長らく交友してきた斎藤樂亭が死去、またこの年の前後には交流のあった池内陶所が殺害され、鈴木重胤（皇学論者）が江戸自宅で刺殺され、藤本鉄石は天誅組拳兵により討死し、貫名海屋・広瀬旭荘も没し、浮丘の身の回りから相次いで知人が亡くなりました。

知人の死が浮丘の心に陰を落としたであろうことは想像に難くありません。事実、浮丘がこの頃に詠んだ歌には寂寥感が漂う歌が少なくありません。浮丘

は、文久2（1862）年に右足を怪我して以後杖を使うようになり、自身の肉体の衰えもその寂寥感に拍車をかけたと思われま。

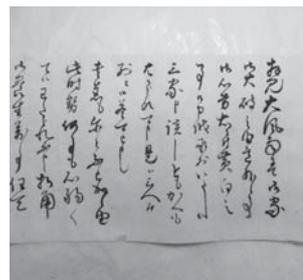
浮丘が残した書状のうち、最後の筆と思われるものが現存しており、現在開催中の春季特別展にて展示しています。展示中のこの書状は、浮丘が亡くなる直前、慶応2（1866）年に日根対山へ宛てて書いた書状で、対山の家が風で破損したことを案じており、そのほか、体の衰えからぶどう汁や梨の汁くらいしか喉を通らず、菊花をみることもできないと嘆いています。対山の家については、恐らく別の書状で対山から浮丘に屋敷修繕費の借用をお願いしたと思われ、浮丘は老いてなお快く修繕費の貸出を承知しており、浮丘が死の直前まで対山を援助していたことがわかります。

この書状後半には50余年にわたる交友が、今は懐かしいと述べており、浮丘の対山への交友が生半可なものではなかったことが伝わってきます。対山に対しては長生きして名を馳せたいと願っています。浮丘は、慶応2年の9月に67歳でこの世を去りました。激動

の幕末を生きた里井浮丘という人物は非常に大きな役割を果たしたといえます。

彼の知識人としての一面は近隣だけではなく、京都・大坂を中心とした全国各地の思想家、学問家にも影響を及ぼしました。また、廻船問屋として培った経済力を活かして書画を収集し、公開する姿は現代の博物館・図書館のようです。

佐野浦の食野・唐金家だけでなく、湊浦の商人が築いた経済力も文化教養に活かされ、また彼らの人脈が泉州だけでなく京都・大坂、更にはもっと広範囲に展開していたことがわかります。商業の街泉佐野を支えた商人は、佐野の教養文化をもその経済力で支えたといえるでしょう。



▲対山に宛てた浮丘の書状

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
 ☎469-7140 Fax469-7141  
 休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館日）  
 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
 入館料 無料

消費生活センターだより  
 見守りリー→  
 相談はお早めにセンターへ!!  
 相談受付 午前9時～午後4時30分  
 南海線「泉佐野」駅前 ☎469-2240

## ウォーターサーバーの契約は慎重に！

ウォーター料（千円）は毎月必要で、水の購入を1ヵ月飛ばすと翌月に2ヵ月分支払うことになるのに、担当者は水の代金（4千円）プラス1ヵ月分のレンタル料の料金で説明していた。

センターから事業者者に電話をして、相談者の申出を伝えた。事業者から「契約内容に不足はない、契約書のレ点（チェック）は契約者がした」との返答があったので、相談者に再確認したところ、契約書のチェックは担当者がしたとのことだった。

改めて事業者者に「契約書のチェックの件」と「2ヵ月毎に支払う金額の説明が間違っていたこと」は問題であると再考を促した。その結果、解約料は不要となった。

●契約期間（2年や3年）の縛りがあり、中途解約の場合が多い。水の料金、サーバーレンタル料、メンテナンス料金、配送料金などを規約でよく確かめましょう。月々の電気料金もかかります。

●トラブルとしては解約料に関する相談が多く、そのほか水漏れがする、かび臭い、思ったより大きくて置く場所がない、水が余って飲みきれない、音が気になるなどの相談があります。勧められるままにその場で契約しないで、よく検討しましょう。

困った時は、消費生活センターにご相談ください。